

目次

1章 「これから」のための HIV/ エイズの歴史

- 01 未知の病
- 02 日本のエイズ患者第1号をめぐって
- 03 エイズはゲイの病気？
- 04 エイズパニック～松本・神戸・高知
- 05 不可視化された「日本人の同性愛者」
- 06 エイズ予防法案をめぐって
- 07 薬害エイズ
- 08 薬害エイズ裁判
- 09 第10回国際エイズ会議（横浜）
- 10 GIPAの実現への道
- 11 「Living Together」キャンペーン
- 12 HIV/ エイズ流行の終結を目指して

2章 HIV/ エイズの基本情報

- 01 HIV 感染者数、エイズ患者数、HIV 検査件数の動向
- 02 エイズ発症期の症状
- 03 検査の方法
- 04 治療薬の進化
- 05 HIV 陽性者が利用できる主な支援制度
- 06 U=U
- 07 現在も続く差別や偏見
- 08 世界の HIV/ エイズの状況
- 09 セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

HIV/ エイズの基礎知識、HIV 陽性者の手記、感染症年表、相談窓口なども収録

エイチアイブイようせいしや しゅき ぼっすい HIV 陽性者の手記より抜粋



ごとうまさよし
後藤正善さん

にゅういんちゅう びょうしつ め だ おくじょう す
入院中、たまに病室を抜け出して屋上でタバコを吸っていた。

ある日、いつものようにタバコを吸っていると、当時ほとんど関わりが
なかつた岡先生（のちの国立国際医療センター長）に見つかった。

がんめん あたま ま かんせん
顔面も頭も真っ赤にして「お前、感染してるのになんでタバコなんて
吸ってるんだ！！ましてや未成年だろ！」と猛烈に怒られた。

「え……俺、感染してるの??」

そう。このやり取りが俺の HIV 陽性の告知だった。

ちゅうがくいちねんせい
中学1年生だった。



おくひろと
奥井裕斗さん

じんせい お はら
人生もう終わりだと腹をくくった。

しかし、何も終わらなかった。毎朝くすり一錠を飲むようになっただけで
会社員としての毎日は変わらず続いた。

ゆまに書房 〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-7-6 TEL:03-5296-0491 FAX:03-5296-0493 WEB:https://www.yumani.co.jp

ご注文書	どう向きあう？HIV/エイズのこれから		ご注文日	部数	取扱店
	著者：山縣真矢 監修：染矢明日香 B5判 48頁 定価：本体3,400円＋税 ISBN978-4-8433-7140-4 C0036		年	部	
			月	日	
お名前			TEL	-	-

2025 年 12 月発売予定

中学生・高校生向け書籍

HIV/ エイズの歴史を理解し、感染症との向きあい方を考えよう！



どう向きあう？ HIV/ エイズのこれから

著者：山縣真矢（NPO 法人プライドハウス東京理事）

監修：染矢明日香（NPO 法人ピルコン理事長）

寄稿：奥井裕斗、後藤正善、染矢明日香

装丁・イラスト：矢野ほなみ

タイトルデザイン：塚本陽

DTP デザイン：妹尾亜留美（株式会社 AL13）

B5 判 48 頁 定価：本体 3,400 円＋税

ISBN978-4-8433-7140-4 C0036

ゆまに書房



はじめに

人類の歴史に「エイズ」が登場してから半世紀近くが経ちました。
この間に治療法は格段に進歩し、エイズは「死に至る病」から「コントロール可能な病気」になりました。
しかし、減ったとはいえ、世界規模で見ると感染者はまだ多く、
また、日本では社会的関心が薄れてきているのが現状です。
本書は、生まれたときにはすでにエイズは「死の病」ではなかった現在の中・高校生に向けて、
今も差別や偏見が根強い「HIV/エイズ」という感染症が、
日本の社会でこれまでどう扱われ、これからどう向きあえばいいのかを考える手掛かりを提示します。
そして本書が、コロナ禍を経験した私たちに、未知の感染症への向きあい方について示唆を与えることになれば幸いです。



エイチアイブイ
HIV
Human Immunodeficiency Virus

人の血液の中で増えて、リンパ球(免疫の働きに重要な役割を果たす細胞)を直接、破壊するウイルスです。HIVが体の中に入って増えることを「HIVに感染する」といいます。それによって引き起こされる疾患のことを「HIV感染症」といいます。



エイズ
Acquired Immunodeficiency Syndrome

HIVに感染すると、免疫の働きが弱くなります。そして、健康な人は発症しないような感染力の弱い病原体によるさまざまな疾患(日和見感染症や悪性腫瘍など)が現れます。その状態のことを「エイズを発症している」といいます。

HIVに感染しても、すぐにエイズになるわけではありません。特定の疾患(指標疾患)が一つでも認められると、エイズと診断されます。

治療をせず放置した場合、HIVに感染してからエイズを発症するまでに、数年から10年ほど(個人差があります)かかります。

HIVは、感染した人の体液の中でも、血液、精液、膣分泌液、母乳などに多く含まれています。

HIVが含まれる体液が、傷口や粘膜(口や鼻の中、尿道、膣、子宮、腸管など)につくと、そこからウイルスが体の中に入り込んで、感染します。



- 主要な感染経路は、以下の3つです。
- ① 性行為による感染
 - ② 血液を介しての感染(注射器の共用、輸血など)
 - ③ 母子感染(妊娠中、出産時、授乳など)



現在のところ、体内のHIVを完全に排除することはできません。
しかし、効果的な抗HIV療法を受け、欠かさず薬を服用し続けると、1〜6カ月で、検査をしても、血液中のHIVが見つからない状態になります。
この「検出限界値未満」の状態を、さらに最低6カ月以上持続できれば、性行為によってパートナーにHIVを感染させるリスクがゼロになります。
これが「U=U」の状態で、「検出限界値未満であればHIVに感染しない」ことを表します。
HIV陽性は、性行為も含め、感染していない人となんら変わらない生活を送れるということです。
これは、国際的にも科学的な根拠が示されている事実です。

U=U